神戸空襲と連合国軍捕虜
―犠牲者を「刻銘」する―

飛田雄一

昨年（2025 年)、２度、オーストラリアの元捕虜の関係者が神戸に来られた。むくげ通信 329 号（2025.3）と 333 号（2025.11）で報告した。

私も世話人をしている神戸空襲を記録する会（事務局：学生センター内）は、2013 年、大倉山にモニュメント「神戸空襲を忘れない―いのちと平和の碑」をつくった。神戸空襲では、8000 名以上が亡くなったと言われる。しかし当初ここに名前の刻まれているのは、1752 人。犠牲者の名前を刻む事業はその後も継続している。２年に一度、「刻銘追加式」をしている。今年は６月 7 日に開かれる。前日には、薬仙寺で「空襲死者のお名前を読む会」がある。

モニュメントには、神戸空襲で犠牲となった朝鮮人・中国人の名前もある。朝鮮人については、川崎重工、三菱重工の名簿（いわゆる厚生省名簿）に、「空襲死亡」、あるいはその日に「逃亡」した人の名前もある。金慶海さん、梁相鎮さんらの調査に基づくものだ。

神戸空襲で犠牲となった連合国軍捕虜もいるが、まだその名前が碑に刻まれていない。捕虜の神戸空襲犠牲者について整理して名前を刻もうと思う。

●

捕虜収容所の神戸ハウスは、1942 年 9 月、「大阪俘虜収容所神戸分所」として開設された。翌 1943 年 2 月、「大阪俘虜収容所第１分所」と改称されている。更に 1945 年 8 月には「大阪俘虜収容所第 2 分所」と改称されている。（以下の記述は、POW 研究会事典編集委員会編『捕虜収容所・民間人抑留所事典―日本国内編―』（すいれん舎、2023 年 12 月）による。）

場所は、神戸市役所のすぐ南西、現在の神戸港郵便局、隣接する駐車場およびその北の部分。東には東遊園地がある。この遊園地で捕虜は点呼を受けた。

ここでは、134 人が死亡している。英 118 人、豪８人、米６人、蘭に２人。英の死者が多いのは、「りすぼん丸」が関係している。同船は香港から捕虜を移送中上海沖で米潜水艦の攻撃を受け、845 名が海没した。生存者も「衰弱がひどく到着から 2 か月ほどで 50 人も死亡し、その後も死者が続出した」という。

1945 年 6 月 5 日の神戸空襲で神戸ハウスは焼出した。被災した捕虜は、すでに閉鎖していた丸山の収容所に移った。神戸電鉄丸山駅から南西に徒歩 15 分、現在神戸市立療育センターのあるところだ。

そして同月 21 日、脇浜（わきのはま）の収容所跡に移動し終戦を迎えた。終戦時の捕虜は 488 人、内訳は英 360 人、豪 73 人、米 26 人、蘭 17 人、ギリシャ５人、アイルランド３人、中国２人、マルタ（英領）１人、カナダ１人。

神戸ハウス、丸山および脇浜で、空襲犠牲者はでていないようだ。

●

収容所と別に捕虜病院があった。1944 年７月に開設した。新神戸駅から東へ 500M。現在の神戸市文書館（旧南蛮美術館）南でマンションが建っている。1941 年に閉鎖した中央神学校を日本軍が接収して捕虜病院とした。ここで治療にあたっていた大橋医師と捕虜の交流についてはむくげ通信前号（333 号）で紹介した。

1945 年 6 月 5 日、この病院も空襲に見舞われた。この空襲で３人が犠牲となった。

- サミュエル・バイオール（Samuel J. Byall）米兵卒
- ポール・ヘメルガーン（Paul S. Hemmelgarn）米２等軍曹
- アルバート・ナイト（Albart L. Knight）英伍長

「この人たちは残った体の一部で本人と確認された」という。「他に 21 人が負傷し（重度火傷 17 人、軽度の切り傷、打撲４人）、患者のカルテ、そして大半の薬剤も焼失してしまった」

空襲後、夜の強行軍で、捕虜たちは丸山収容所に移動した。この過酷な移動についても、通信前号で紹介した。

風雨の中の山越えの影響で 10 人の患者が亡くなった。「捕虜軍医たちは大橋軍医がいなければ死者数はもっと増えていただろうと、1945 年６月

17 日、大橋軍医に連名の感謝状を渡した」。

この 10 人も空襲の犠牲者と言えるだろう。

病院から丸山に移った捕虜も丸山のほかの捕虜とともに脇浜に移動し終戦を迎えている。

●

捕虜収容所とは別に、「民間人抑留所」があった。飛田は通信 308 号（2021.9）で「アシスト自転車、再度山、そして、「敵国人」抑留所」を書いて紹介している。また、『＜資料集＞アジア・太平洋戦争下の「敵国」民間人抑留―神戸の場合―』（神戸学生青年センター、2022.4）が発行されている。『事典』の関連部分執筆者小宮まゆみさんのレポートなどが集められている。

神戸市内に抑留所は 5 カ所あった。その位置および犠牲者（神戸空襲の犠牲者ではない）の人数は以下のとおりである。

- 第 1 抑留所、神戸市灘区青谷町 2 丁目 6、旧カナディアンアカデミー校舎（現在神戸松蔭中学高等学校東側の住宅地、飛田が以前青谷に住んでいたころには乗馬の馬場があった）、英 3 人。高齢者が多い。
- 第 2 抑留所、神戸市中央区山本通 1 丁目、現・神戸電子専門学校付近。カナダ 1 人。修道女ケイト・マクファーレン（K. McFarlane）、小林聖心女学校教師。42 歳、「1943 年 12 月 17 日に座骨神経痛のため抑留解除となり修道院に帰された。そして 1 年後の 1944 年 12 月 21 日に修道院で死亡」
- 第 3 抑留所、神戸市中央区北野町 2 丁目 9 付近のバターフィールド＆スワイヤ汽船社宅。米 3 人。
- 第 4 抑留所、神戸市中央区伊藤町、シーメンスミッション・インスチュートから同山本通 2 丁目 9、チャータード銀行社宅。米 1 人。
- 再度山抑留所、神戸市中央区神戸港地方口一里山（じがたいちりやま）付近。米 2 人、ベルギー1 人。

民間人抑留所では空襲による犠牲者はでていないようである。

●

神戸空襲をもたらした B29、一機が日本軍によって撃墜されている。抑留所のあった再度山に落ちた B29 があった。1945 年 3 月 17 日のことだ。伊丹基地から発進した陸軍飛行第 56 戦隊の緒方淳一大尉操縦の「飛燕」が体当たり攻撃をした。搭乗員 11 人のうち 9 人が墜落死した。

2 人の飛行士がパラシュートで降下した。2 人は兵庫県警外事部から神戸憲兵隊司令部に引き渡された。その後、中部軍の軍律会議にかけられて、7 月 18 日、無差別爆撃を理由に斬首刑に処せられた。R.W.ネルソン（Robert W. Nelson）少尉と A.S. オーガナス（Algy S. Auganus）軍曹の 2 人である。

この 2 人および死亡した墜落死した 9 人の名をモニュメントに刻むのは無理があるかもしれないが、沖縄の平和の礎では、敵味方を問わず名を刻んでいる。私たちはどのように考えたらいいのだろうか。

B29 のジュラルミンの機体は抑留者たちによってフライパンや鍋などに加工された。2021 年 3 月 17 日の神戸空襲慰霊祭に堺の玉置さん（91 歳）が当時のジュラルミン製の玉じゃくしを持参してくれた。戦争中に再度山の抑留所を訪問したときにもらったものだという。けっこう立派なものだ。

モニュメントには建立の 2013 年 8 月 15 日、1752 人の名が刻まれた。その後判明した犠牲者の名前を「刻銘追加式」を行って追加している。

2014 年 6 月 1 日、158 人
2016 年 6 月 5 日、102 人
2018 年 6 月 3 日、32 人＊
2020 年 6 月 7 日、148 人（＊2018 年の 1 人が重複判明）
2022 年 6 月 5 日、40 人
2024 年 6 月 2 日、36 人

刻銘者数は、合計 2267 人である。まだ 8000 人を越える犠牲者の一部である。新たに犠牲者の名前が判明すれば刻銘することになっている。今回、捕虜病院で亡くなった 3 人の名前を刻んでもらおうと思う。